

第2回オスマン文書研究会
1999年6月19日
東京外国語大学2号館
語学研究所会議室
「シャリーア法廷文書研究の展望」
大河原知樹
(慶應大学大学院)

1. シャリーア法廷文書の発見

中東の歴史研究における新史料の発見：「史書から行政文書へ」
中東欧、トルコにおける古文書の収集、研究、整理の開始
(本研究会第1回の高松氏の発表「オスマン文書研究上の諸問題(総論)」を参照)
シャリーア法廷文書：地方史、地域史研究の重要な史料として特に注目される
→地方行政の要としての qaḍā' (kaza) の記録 cf. wilāya (vilāyet)
年代記などの史料のない場所でもシャリーア法廷は存在 cf. Ḥamā
地域社会の日常世界を反映する史料(訴訟、取引、婚姻、離婚、遺産相続など)
オスマン朝支配地域のほぼ全土で施行
オスマン朝時代(1299-1922)の大部分をカバー

2. シャリーア法廷文書の収集、整理の動き

オスマン朝期に記録されたシャリーア法廷文書
紙葉形態の「文書」：証書 ḥujja (pl. ḥujaj), 判決文 i'lām (pl. i'lāmāt) など
冊子形態の「記録」：daftar (pl. dafātir), sijill (pl. sijillāt), jarīda (pl. jarā'id), maḍbata など

オスマン朝以前のシャリーア法廷文書
sijill (pl. sijillāt), maḥdar (pl. maḥādir) という文書の存在：
いつから台帳という意味に変わったのか？
台帳記帳形式はいつ、どこで確立したのか？
Ibn Khaldūnのsijillātの訳をめぐって：「判決証書」か、「法廷台帳」か？(森本,三浦, Little, 松田)

冊子形態のシャリーア法廷文書の収蔵、整理、目録化の動き

トルコ (Bayındır, Akgündüz)
1894 Şer'iyye Sicillleri Arşivi の設立
他、博物館や図書館にも収蔵 cf. Topkapı Müzesi
現在、イスタンブールのものは İstanbul Müftülüğü Şer'iyye Sicilleri Arşivi に。
888-1343/1483-1925の期間、27分類、9870冊
地方のシャリーア法廷文書台帳は各地の博物館に所蔵
最古の台帳はブルサA.1, 860-900/1455-1495
全国では30,000冊以上の台帳が所蔵されている

エジプト
カイロ (El-Nahal, Raymond)
カイロのシャリーア法廷文書館に所蔵
15の法廷が4部門に分類、1527-1910の間の1851冊
I. al-Bāb al-'Ālī 559冊
II. al-Qisma al-'Arabiya 418冊
III. al-Qisma al-'Askariya 157冊
IV. Other minor 12 courts 717冊

アレクサンドリア (長谷部)
不動産申告所 Dār al-Shahr al-'Aqārī 所蔵、ロゼッタも含む
16世紀中葉から19世紀初頭の期間、300冊以上

アルジェリア
国立文書総局 Direction Generale des Archives Nationales d'Algerie に所蔵

ヨルダン (Madndaville)
大学図書館、文書・写本研究所などに所蔵？
シリアのシャリーア法廷文書台帳のマイクロも相当数所蔵

パレスティナ

エルサレム (‘Asalī, Doumani)

シャリーア法廷新書庫に所蔵 20世紀に2度の移転

1940年代にカーディーの命によって台帳の番号づけ

936/1530から現在まで626(or 616)冊 (内416冊がオスマン朝時代)

その内、23冊がオスマン語 *evamir series* (D), *sijillāt al-farmānāt wa al-awāmīr* (A)(1538-1673)

it is possible that the absence of Turkish sijills reflects the weakening of central control.

sijill ‘ām (D) (19世紀第4四半世紀まで) *al-sijillāt al-‘amma* (al-‘ādiya) (A)

sijillāt wikālāt (D), *sijillāt al-wiṣāyāt wa al-wikālāt* (A)

sijillāt aḥkām wa ‘ilamāt (D)

sijillāt qarārāt (D)

sijillāt irth (D), *sijillāt al-matrūkāt* (A)

sijillāt ḥujaj (D)

sijillāt ṭalāq (D)

sijillāt qassam (D), *sijillāt al-qassām al-‘askarī*, *sijillāt al-qassām al-‘ādī* (A)

sijillāt aytām (D)

ナーブルス (Doumani)

1656が最古、226冊 (内、50冊がオスマン朝時代)

1冊は194頁から785頁、平均は約300頁

他、Hebron, Jaffa, Haifa, Nazareth, Acre, Jeninに19世紀の台帳が存在

Safad, Lydda, Ramla, Bisanの台帳は現存していない

レバノン

ベイルート (Hallāq)

国立文書館 *Dār al-Maḥfūzāt al-Waṭaniya* に所蔵

1259/1834の台帳が最古 冊数？

トリポリ (Tadmurī, Ḥimṣī)

トリポリのレバノン大学社会学研究所第3支部に所蔵？

1077-1300/1666-1882の間の70冊

スール (Faraj)

1308-1321/1890-1903の5冊、シャリーア法廷に所蔵

サイダー (Abdel Nour)

18冊 (内、1882-1916の間の4冊がオスマン朝時代)

スンナ・シャリーア法廷 *le tribunal shar‘ī sunnī* に所蔵

3. シリアにおけるシャリーア法廷文書の収蔵、整理の歴史

(Mandaville, Rafeq, Abdel Nour, Ḥakīm, 三浦)

1959 ダマスカス歴史文書局 *Mudiriya al-Wathā‘iq al-Tārikhiya* 設立

1974 現在の文書館所在地 (|||Khālīd al-‘Azm邸)に移転

歴史文書館 *Markaz al-Wathā‘iq al-Tārikhiya* と改称

設立目的：

1) 国史に関する歴史文書、および古代より現代に至る全時代史関連物の収集と保存。

これらの文書は移転可能な考古物とみなされ、「考古法」に従うものとする。

2) 前記の文書の研究に関し、研究者や歴史家に対して便宜を供与すること。

研究活動。その内で決定が下されたものを出版すること。

歴代館長：全て歴史学者

初代 *Nādir al-‘Aṭṭār* (1959-ca. 1970)

2代 *Abū al-Faraj al-‘Ashsh* (ca. 1970)

3代 *Da‘d al-Ḥakīm* (1971-)

運営組織：5つの部門

1) 公文書部門 *shu‘ba wathā‘iq al-dawla* 政府機関の法令など

2) 特別文書部門 *shu‘ba al-wathā‘iq al-khāṣṣa* 個人的コレクションなど

3) オスマン文書部門 *shu‘ba al-wathā‘iq al-‘uthmāniya*

- 司法省 *wizāra al-‘adl* から移転してきた台帳、個人的コレクションなど
- 4) 新聞部門 *shu‘ba al-ṣuḥuf*
 - 5) 図書館 *al-maktaba*

依頼された業務：所蔵文書のデータベース化事業
オスマン文書部門を選択

1) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Dimashq	1556冊
2) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Dimashq (<i>mushawwash</i>)	55冊
3) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Ḥalab	644冊
4) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Ḥalab (<i>jadīd</i>)	20冊
5) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Ḥamā	64冊
6) <i>maḥākim shar‘īya</i> - Ḥomṣ	21冊
7) <i>awāmir sulṭāniya</i> - Dimashq	12冊
8) <i>awāmir sulṭāniya</i> - Ḥalab	67冊
9) <i>darkanār</i>	100冊
10) <i>maḥākim nizāmiya</i> - Dimashq	142冊
11) <i>maḥākim tijāriya</i> - Dimashq	156冊
12) <i>ḥujaj mutafarriqa</i>	2250葉(?)

シャリーア法廷文書台帳の基礎データ取り直しを決定 1)～6)

最大の問題点：台帳の所属する法廷名の確定作業が不十分

複数の法廷が存在するダマスカス、アレppoの台帳は？

→史料の性格が確定されていない：諸説の乱立状態

- cf. *Qaṭṭān* の研究 1784-1865 の100冊を使用、42冊の所属が不明、史料選定基準も曖昧
Marino の研究 1140-1243/1727-1830 の252冊中、39%にあたる98冊は所属不明
Abū Salīm の研究

参照したもの

- a) *Rafeq, Bakhit, Ḥakīm*によるシャリーア法廷文書所蔵状況の解説

ダマスカスの法廷

16C 6 法廷 *Bāb al-Efendī, al-Kubrā, Maydān al-Ḥaṣā, Qanāt al-‘Awnī, al-Ṣāliḥiyya, Qisma*

18C 5 法廷 *Bāb, al-Kubrā, al-Maydān, al-Ṣāliḥiyya, Qanāt al-‘Awnī*

ダマスカスのカーディー、よそ者、任期1年、再任なし

ナーイブは現地出身、再任あり、長いもので50年

Kubrā 法廷におり、その後、*Bāb* 法廷に移転 cf. *Marino*

総説 5 法廷 *Al-Bab, Al-Kubra, Al-Sinaniye, Al-Salihiye, Al-Auniye*

総説 8 法廷 *al-Bāb, al-Kubrā, al-Maydān, al-Sināniyya, al-‘Awniyya, al-Ṣāliḥiyya,*

al-Qisma al-Baladiyya al-‘Arabiyya, Qassām ‘Askarī の法廷

- b) 冊子形式の目録1冊

クイック・レファレンスに便利、台帳番号、頁・ドキュメント数、日付、法廷名は弱い

- c) カード形式のデータ 1), 3), 5), 6) の2285冊分 (=2285カード)

b) より法廷名が若干詳しい、b) とは作成者が異なる？

- d) 年代記、人名録、年鑑 *sālnāme* などから情報をピックアップ

年鑑以外はあまり役に立たない。ダマスカス1巻めの法廷名同定には益あり。

台帳の現物点検（ダマスカスとアレppoでは有効なものが若干異なる）

- i) 台帳の外観、寸法で同定（主法廷、*Qismatayn* の台帳は他のものより縦長の場合）

- ii) 台帳中に法廷名の記述されている箇所を探索（台帳の表紙、1頁め、最終頁、印章）

（通達文 *murāsālāt*、カーディー他の官吏の任命状、判決文書控え *i‘lāmāt*、認書 *taṣdiq*）

- iii) カーディー名を記録し、同年代で分布を比較

- iv) 書記 *kātib* (pl. *kuttāb, kataba*)、公証人 *shāhid* (pl. *shuhūd*) を記録し、同年代で分布を比較

- v) 証書控えの内容の差異を考察（主法廷、*Qismatayn* と小法廷の区別には有効）

cf. *sabab taḥrīr ..., qarrara ...* で始まる証書控え

- vi) 所属不明の箇所を所属確認済みの同年代の箇所と比較（紙、書体、書記など）

* 出版される目録においては、ii) 以外は証拠として不採用

台帳を調査して導き出した法則をもとに、他の台帳の性格を類推しているから

台帳点検結果

Istanbul, Cairo の分類の妥当性を確認：主法廷、Qismatayn、小法廷という分類
初期は特に錯簡が多い→法廷別に分類しなおすことが困難

錯簡された台帳部分も含めた法廷別時代分布
al-Bāb, al-Kubrā 法廷の改称？小法廷の閉鎖？

The Courts of Damascus

Court	Dates	Mosque-School
al-Bāb	1100-1330/1688-1912	jānib al-Nūrīya
al-Shar‘īya bi-Dimashq	1303-46/1885-1928	jānib al-Nūrīya
al-Kubrā	991-3, 1091, 1113-1328/1583-5, 1680, 1701-1910	al-Jawziya
al-Maydān/al-Sināniya	1119-1327/1707-1909	al-Minqāl, al-Sināniya
al-Maydān al-Kubrā	1265-1327/1848-1909	al-Juwaydān
al-‘Awnīya	1133-1327/1720-1909	jānib al-Jawza
al-Ṣālīhiya	1149-64, 1281, 1290-1295/1736-51, 1864, 1873-8	al-Jarkasiya
al-Qisma al-‘Askariya	1035-1272/1625-1856	?
al-Qisma al-Baladiya	1097-1262/1685-1846	jānib al-Nūrīya?
al-Qassām	1270-1316/1853-1899	ānib al-Nūrīya?

The Courts of Aleppo

Court	Dates	Mosque-School
al-Kubrā	913?, 922, 955-1283/1507?, 1516, 1548-1867	jānib al-Mihmandār
al-Shar‘īya bi-Ḥalab	1287-1362/1870-1943	?
al-Ṣalāhiya	1035-1228/1625-1813	al-Ṣalāhiya
al-Shāfi‘īya	1033-1228/1623-1813	Sūq al-Sabbāghīn
al-Bānqūsiya	1067-1215/1656-1801	al-Bānqūsiya
Jabal Sim‘ān	1002-1215, 1316-37/1593-1801, 1898-1919	?

史料移転の経緯の推測

- 19C初頭 アレppoの諸小法廷の閉鎖(?)後の台帳の移転先？
- 1290 /1874 シャリーア法廷文書台帳と訴訟審理記録台帳にかんする訓令
台帳の保管方法を具体的に指示
- 1296/1879 証拠なき内容にたいし、施行、判決が許可されうる形でのシャリーア証書の起草
にかんする至高の訓令
- 1306/1889頃 アレppoで18世紀の台帳を整理、頁番号付け、製本（表紙なし？）活動
＊頁番号下にHasan Taḥsīn bey efendi (1306/1889頃在職)の押印あり
- 1909-10 ダマスカスの諸小法廷の閉鎖(?)後の台帳の移転先？
- 1930年代 ダマスカスのシャリーア法廷はIIIバープ法廷の位置に、ワクフ委員会も。
- 1950年代 司法省でオスマン朝時代のダマスカス、アレppo・シャリーア法廷台帳の整理実施、
台帳番号、頁番号付け？
錯簡の部分の末尾に口付と署名（整理担当）
その後の製本実施 ＊証拠として1頁めの欠落、ダマスカス、アレppoの混交製本
＊全ての台帳が司法省へ移ったのか？
直接移転したのか？どこかを経ているのか？
- 1960年代 司法省から歴史文書局への移転開始
ドキュメント番号付けの実施 ＊ペンの種類、色の差異
- 1973 ダマスカス台帳 991-1304/1583-1887の804冊所蔵
アレppo台帳は 962-1303/1555-1886の297冊所蔵
- 1973. 7. アレppo台帳 -1344/-1926の371冊を移転 ＊awāmīr含む？
- 1973.12. ダマスカス台帳 -1321/-1904の61冊移転を計画、実際には-1339/1921の197冊を移転
- 1974 歴史文書局の移転（現在の場所）
さらなる分類、台帳番号がえの実施
台帳番号のつけかえ作業、両分類間での移動あり ＊今回の分類実施中も混交を発見
シャリーア法廷、勅令分類以外の台帳の移転経緯については不明
- 1980年代 マイクロフィルム撮影
- 1997-9 新規目録作成、データベース作成

今後に向けて

紛失した台帳の調査：ワクフ省、内務省などが有力
4 都市以外のシャリーア法廷文書台帳の探索
文書のデジタル保存化：台帳のオリジナル形態復元に向けて

参考文献

イブン＝ハルドゥーン（著）森本公誠（訳・解説）『歴史序説』3巻、岩波書店、1987年
久保一之「イスラーム期中央アジア古文書学の成果と16世紀ブハーラーの法廷文書書式集」『東洋学報』78-2、1996年、029-053頁
長谷部史彦「オスマン朝アレクサンドリア史研究の現状-サラーハ・アハマド・ハリディー博士の法廷文書研究について-」『史学』60、1991年、79-89頁
松田俊道「マムルーク朝政権とキリスト教徒」堀川徹（編）『講座イスラーム世界3世界に広がるイスラーム』栄光教育文化研究所、1995年、125-156頁
松田俊道「マムルーク朝時代エルサレムの裁判官」『中央大学文学部紀要』42、1997年、1-18頁
三浦徹「オスマン朝時代のシリア史研究-A・K・ラーフェク氏の法廷文書研究を中心に-」『お茶の水史学』34、1990年、95-105頁
三浦徹「カーディーと公証人-イスラム法世界の裁判と調停-」『歴史学研究』717、1998年、59-69,79頁
三浦徹「19世紀ダマスカスのイスラム法廷文書(1)：サーリヒーヤ法廷をめぐる人間関係」『東洋文化研究所紀要』135、1998年、147-227頁
三浦徹「19世紀ダマスカスのイスラム法廷文書(2)：サーリヒーヤ街区における社会経済関係」『東洋文化研究所紀要』137、1999年、295-349頁

Abdel Nour, Antoine, *Introduction à l'Histoire Urbaine de la Syrie Ottomane (XVIe-XVIIIe Siècle)*, Beyrouth, 1982.
Abū al-Sha‘r, Hind Ghassān (ed.), *Dirāsāt fī Maṣādir Tārīkh al-‘Arab al-Ḥadīth*, ‘Ammān, 1998.
Akgündüz, Ahmet, *Şer‘iye Sicilleri, Mahiyeti, Toplu Kataloğu ve Seçme Hükümleri I-II*, İstanbul, 1988-1989.
al-‘Asālī, Kāmil Jamīl, *Wathā‘iq Muqaddasiya Tārīkhiya*, ‘Ammān, 1983.
Bakhit, Muhammad Adnan, *The Ottoman Province of damascus in the Sixteenth Century*, Beirut, 1982.
Bayındır, Abdülaziz, *İslām Muhakeme Hukuku (Osmanlı Devri Uygulaması)*, İstanbul, 1986.
Doumani, Bishara B., "Palestinian Islamic Court Records: A Source for Socioeconomic History", *MESA Bulletin*, 19-1, 1985, pp155-172.
Faraj, Hawlū, "al-Zawāj wa al-Ṭalāq fī Madīna Şūr, İstinādan li-Sijillāt Maḥkama Şūr al-Shar‘iya 1890-1903", in Muntadā Şūr al-Thaqāfi (ed.), *Şūr min al-‘Ahd al-Fīniqī ilā al-Qarn al-‘Ishrīn*, Şūr, 1996, pp237-261.
Faroqhi, Suraiya, "Sidjill", *EI2*.
al-Hakim, Daad, "The Center of Historical Documents in Damascus, Classifying, Indexing, and Studying its Documents", *AJAMES*, 4-2, 1989, pp286-296.
Ḥamūda, Maḥmūd ‘Abbās, *al-Wathā‘iq al-‘Uthmāniya fī Miṣr, Zawāj - Bī‘ - Ijār - Istibdāl - Waqf*, al-Qāhira, 1984.
Ḥallāq, Ḥassān, *al-Tārīkh al-İjtīmā‘ī wa al-Iqtisādī wa al-Siyāsī fī Bayrūt wa al-Wilāyāt al-‘Uthmāniya fī al-Qarn al-Tāsi‘ ‘Ashar, Sijillāt al-Maḥkama al-Shar‘iya fī Bayrūt*, Bayrūt, 1987.
al-Ḥimṣī, Nahlī Subḥī, *Tārīkh Ṭarābulus min khilāl Wathā‘iq al-Maḥkama al-Shar‘iya fī al-Niṣf al-Thānī min al-Qarn al-Sābi‘ ‘Ashar al-Milādī*, Ṭarābulus, 1986.
Ibn Khaldūn, ‘Abd al-Raḥmān, *Tārīkh al-‘Allāma Ibn Khaldūn*, vol.1, 2nd ed., 1961, Bayrūt.
Little, D. P., "Sidjill" in *IE2*.
Mandaville, Jon E., "The Ottoman Court Records of Syria and Jordan", *JAOS*, 86, 1966, pp.311-319.
Marino, Brigitte and OKAWARA Tomoki, *Catalogue des Archives des Tribunaux de Damas*, supervised by Da‘ad al-Ḥakīm, Damas, 1999. (in press)
(al-Mudiriya al-‘Āmma lil-Āthār wa al-Matāḥif), *Nizām Markaz al-Wathā‘iq al-Tārīkhiya*, Dimashq, 1981.
El-Nahal, Galal H., *The Judicial Administration of Ottoman Egypt in the Seventeenth Century*, Minneapolis, Chicago, 1979.
al-Qattan, Najwa, *Dhimmi in the Muslim Court: Documenting Justice in Ottoman Damascus, 1775-1860*, Ph. D. diss., Harvard University, 1996.
al-Qattan, Najwa, "Textual Differentiation in the Damascus Sijill, Religious Discrimination or Politics of Gender?," in *Women, the Family, and Divorce Laws in Islamic History*, edited by Amira El-Azhary Sonbul, Syracuse, 1996, pp191-201.
Rafeq, Abdul-Karim, *The Province of Damascus 1723-1783*, Beirut, 1966.
Rafeq, Abdul-Karim, "Les Registres des tribunaux de Damas comme Source pour l'Histoire de la Syrie", *BEO*, 26, 1973, pp219-226+5plates.
Rafeq, Abdul-Karim, "The Law-Court Registers of Damascus, with Special Reference to Craft-Corporations during the First half of the Eighteenth Century", in *Les Arabes par leurs Archives (XVIe-XXe Siècle)*, edited by Jacque Berque and Dominique Chevallier, Paris, 1976, pp141-159.
Ramond, Andrè, "Les Documents du Maḥkama comme Source pour l'Histoire Economique et Sociale de l’Egypte au 18 siècle", in *Les Arabes par leurs Archives (XVIe-XXe Siècle)*, edited by Jacque Berque and Dominique Chevallier, Paris.
Reilly, James A., "Sharī‘a Court Registers and Land Tenure around Nineteenth-Century Damascus", *MESA Bulletin*, 21-2, 1987, pp155-169.
Tadmūrī, ‘Umar and Fridirīk Ma’tūq and Khālīd Ziyāda, *Wathā‘iq al-Maḥkama al-Shar‘iya bi-Ṭarābulus, al-Sijill al-Awwal 1077-1078/1666-1667*, Ṭarābulus, 1982.
Uzunçarşılı, İsmail Hakkı, *Osmanlı Devletinin İlmiye Teşkilâtı*, Ankara, 1984.